



Next is us

日体魂を受け継ぐ者

2020年に向けて、
日体大から世界のすべての人々へ
スポーツの魅力と平和への願いをつないでいく。

Special Contents

03 建学の精神を具現化し、 スポーツ・健康をリードする研究活動

(日本体育大学における研究活動の基本方針【活動方針】)

VOL.1 体育研究所 ～研究・競技の両面で一層の高度化に挑む

日体大ならではの高度な研究を推進し、社会的課題に挑む

体育研究所 中里 浩一 所長・保健医療学部整復医療学科 教授

07 夢見る! 児スポ女子

児童スポーツ教育学部のキャンパスライフとサッカーの魅力を語る

三浦 成美 児童スポーツ教育学部4年生/日テレ・ベレーザ所属

11 スポーツ救急をひもとく

⑤スポーツ救急における119の利用

鈴木 健介 保健医療学部 救急医療学科 准教授

15 Next is us 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

第10回 できると信じれば、必ず夢を実現できる

そう強く決意し、大きく羽ばたく

兎澤 朋美 選手 パラ陸上(100m、走幅跳)

17 第53回 日体フェスティバル2019

『繋』日体大から体育・スポーツの魅力を発信する

18 第57回 日本体育大学体育研究発表実演会

祭典に向かって一令和のはじまりー

19 news & topics

阿江通良教授が日本人初、国際スポーツバイオメカニクス学会
Geoffrey Dyson Award賞を受賞!

横浜・健志台キャンパス 2号館5階に新しい食堂がオープンしました!!

プロ野球ドラフト会議2019にて

東京ヤクルトスワローズより2巡目で指名を受けました!



多様性

トラグビーワールドカップ2019日本大会を見ても実に多様な国・地域の選手たちが活躍しているのがわかる。東京2020オリンピック・パラリンピックを前に、多くの外国人が日本を訪れているのも日常的に実感していることだろう。スポーツという世界共通の人類の文化、あるいはコミュニケーション手段を通じて、国際交流が一層進むことを望む。

トそして、多様性(ダイバーシティ)は国籍だけでなく、年齢、性別などに加えて、個々人の生き方、価値観を尊重しながら多くの人に活躍の場を提供することが理想だ。今号では、学業と女子サッカーリーグでの活動を両立させている三浦成美選手、パラアスリートとして活躍する兎澤朋美選手を紹介した。

ト秋は、体育研究発表実演会、日体フェスティバルとイベントが続く。ますます多様化する社会に向けて、日体大の存在をアピールする好機である。



学報

学報 NITTAIDAI 58号 2019. AUTUMN

NITTAIDAI

58



日体大と水泳

オリンピックにおいて、水泳は印象深い名場面や名文句を生み出してきた。そして、日体大関係者も主役としてその舞台に立った。

競泳のメダリストでは、シドニー大会（2000年）の田島寧子、アテネ大会（2004年）・北京大会（2008年）・ロンドン大会（2012年）の北島康介、アテネ大会・北京大会の中村礼子の活躍が記憶に残る。また、前回リオ大会（2016年）では、五十嵐千尋、小関也朱篤、清水咲子、藤森太将、松本弥生が入賞を果たした。

飛込では、リオ大会に坂井丞が出場。シンクロナイズドスイミング（チーム）では、アテネ大会で藤丸真世、リオ大会で箱山愛香がメダルを獲得した。箱山は、糸山真弓とともにロンドン大会でも入賞を果たしている。

そして、リオ大会で特筆すべきは水球（男子）であろう。

実に32年ぶりとなるオリンピック出場に、本学関係者が大



学報NITTAIDAI9号の表紙を飾った北島、中村両選手（2004年）

いに貢献した。本学水泳部水球ブロックは過去に376連勝の偉業を達成している。まさに、日本の水球をリードしてきた存在だ。「ポセイドンジャパン」と称する日本代表男子には、当時の現役学生を含む本学関係者9名が名を連ねた。

さて、2004年秋に発行された学報NITTAIDAI 9号では、アテネ大会においてメダルを手にした北島康介と中村礼子の写真が表紙を飾っている。当時ともに体育学科4年に在学し現役学生としての出場だった。北島は日本競泳史上初の個人2冠、中村は日本新でメダルを獲得した喜びを学報の記事の中で語っている。さらに、学報の同号ではパラリンピックを特集として取り上げている。パラスポーツをはじめこの平成半ば頃からスポーツの新たな潮流が加速し始めたと言えるかもしれない。

2020年には、どのような新しいスポーツムーブメントが動き出すだろうか。



松浪健四郎理事長にアジア選手権の勝利を報告する水泳部・水球ブロックのメンバー（2015年）

スポーツ・健康をリードする研究活動

(日本体育大学における研究活動の基本方針【活動方針】)

VOL.1 体育研究所 研究・競技の両面で一層の高度化に挑む



前号において、建学の精神の現代的解釈、「ミッション」「ビジョン」の改訂、および『日本体育大学グランドデザイン2018-2022』『体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現』に向けて、『に則り、新たに示された「日本体育大学における研究活動の基本方針・基本計画」を紹介した。今号では、研究基盤の整備に主導的役割を担う各センターのうち、「体育研究所」にスポットを当て、研究活動の最前線を見ていきたい。

「日本体育大学グランドデザイン2018-2022（中期目標・計画）」における研究基盤の整備を推進

するため、センターの改組、事業強化が示された。これにより、体育研究所、オリンピックスポーツ文化研究所、スポーツ危機管理研究所が設立された。このうち体育研究所では、次のプロジェクトが展開されている。

- ①健康に関する生理・生化学的基礎研究
- ②子どものからだに関する研究
- ③中高年の健康寿命延伸に関する研究
- ④女性の健康とスポーツに関する研究
- ⑤競技力向上のための効果的なトレーニングとコンディショニングに関する研究

歴史を遡ると、体育研究所が設立されたのは1962年である。創成期を経て、体育研究所の事業報告としての日本体育大学体育研究所報は、1972年に発刊された。初期の報告・研究内容は野外実習の調査研究や部活動における体力測定が主であった。

1972年以降体育研究所からの事業報告書は、多少の名称変更はあるもののほぼ毎年発刊され、43巻を数えるに至る（2018年度現在）。事業報告書を元に体育研究所の研究活動を見ると、子どものからだに関する研究、競技力に関わるハイパフォーマンス研究、スポーツ社会学やスポーツ史をはじめとするスポーツ文化研究、健康に関する生理学的・生化学的基礎研究などを取り扱ってきている。これら体育研究所の活動は、日本体育大学を特徴付ける研究を推進する母体としての役割を果たして来たことを示していると言えるだろう。

近年では、アスリートをサポートする組織づくりと競技力向上研究に取り組み、その成果はNAS (Nittaidai Athlete Support System)の設立へつなが

り、さらに2017年度にはアスレティックパートナーへと展開することとなった。本学の競技力向上のサポート体制の構築に、体育研究所の実績や知見が大いに発揮されてきたわけである。

さらに、競技力向上研究の中心がアスレティックデパートメントに移ると、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」という今日的な使命に挑むこととなった。すなわち、人類が体験したことのないような超高齢社会にすでに突入しているわが国において、健康寿命延伸に関する研究は極めて重要な位置づけにある。厚生労働省が2011年に五大疾病として位置付けたメンタルヘルズ、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の全てに対して運動が有効であることが直接・間接的に証明されている。今後本学において運動と健康に関わる研究を行うことは極めて重要であることは言うまでもない。このような背景の下、2017年度より体育研究所では運動と健康寿命延伸に関わる研究を主要なテーマとして設定することとなった。取り扱う領域も基礎から応用、子どもから中高年といった幅広い対象に取り組んでいる。

さて、体育研究所の特徴の一つであり、設立当初からの一貫したテーマとして「子どものからだと心に関する研究」がある。学外からもその成果は注目されており、研究成果の延長線上として国際児童年の1979年に「子どものからだと心・連絡会議」が設立された。以来、毎年全国研究会が開催され、1989年から全国研究会の討議資料として発行されてきた『子どものからだと心白書』は種々の教員養成課程等において関連授業の教科書や参考図書としても活用されている。子どものからだと心に関する研究は今日的な課題を含んだ社会的な重要性も高い課題であることは間違いない。

このように、体育研究所は健康と身体活動の関係を幅広い年齢層および臨床から基礎研究まで対象にすることで日体大の研究面でのブランディング強化に取り組んでいる。今後も日体大の研究を推進していくとともに、研究レベルのさらなる向上が期待されている。

建学の精神を具現化し、スポー

体育研究所 2019年度プロジェクト

研究プロジェクト1

「健康に関する生理・生化学的基礎研究」

◆概要：本プロジェクトでは遺伝子編集技術として知られるCRISPR/Cas9を用いて健康に関連のあるヒト遺伝子多型のモデル動物を作出し、その表現型を解析することを目的とします。特にヒト遺伝子多型の中でもナンセンス変異を遺伝子ノックアウト動物で再現することを当面の目標とします。

◆研究員：中里浩一，平沼憲治，小林正利，田村優樹，鴻崎香里奈

研究プロジェクト2

「子どものからだに関する研究」

◆概要：保育・教育現場や子育て現場で「ちょっと気になる」、「どこかおかしい」と心配されている子どもの“からだ”に関する問題の所在を事実（証拠）に基づいて明らかにした上で、その解決策を探索する研究を行っています。

◆研究員：野井真吾，岡本美和子，鈴川一宏，鹿野晶子，田邊弘祐

研究プロジェクト3

「中高年の健康寿命延伸に関する研究」

◆概要：本プロジェクトでは加齢にともなう筋、呼吸循環および認知機能の低下の予防やその改善に向けた研究を行い、高齢者が自立した生活を送るための健やかな長寿社会の構築を目指します。

◆研究員：岡本孝信，横山順一，菊池直樹，矢部まどか

研究プロジェクト4

「女性の健康とスポーツに関する研究」

◆概要：女性の生理的特性（月経、妊娠、出産、更年期など）を考慮したコンディション管理に役立つエビデンスを構築し、具体的な改善策を提案することをめざして研究に取り組んでいます。

◆研究員：須永美歌子，岡本美和子，安達瑞保

研究所員一覧

役職	氏名	所属	職名	研究室
所長	中里 浩一	保健医療学部	教授	体育スポーツ科学系
	平沼 憲治	保健医療学部	教授	健康医療系
所員	小林 正利	体育学部	教授	健康医療系
	野井 真吾	体育学部	教授	教育福祉系
	岡本 美和子	児童スポーツ教育学部	教授	健康医療系
	鈴川 一宏	体育学部	教授	健康医療系
	岡本 孝信	体育学部	教授	体育スポーツ科学系
	横山 順一	体育学部	教授	教育福祉系
	須永 美歌子	児童スポーツ教育学部	教授	体育スポーツ科学系
	杉田 正明	体育学部	教授	コーチング系
	西山 哲成	体育学部	教授	体育スポーツ科学系
	大石 健二	体育学部	教授	体育スポーツ科学系
	鹿野 晶子	体育学部	准教授	教育福祉系
	菊池 直樹	体育学部	准教授	体育スポーツ科学系
	岡田 隆	体育学部	准教授	健康医療系
	田村 優樹	体育学部	助教	体育スポーツ科学系
	安達 瑞保	児童スポーツ教育学部	助教	体育スポーツ科学系
	鴻崎 香里奈	体育研究所	助教	
	田邊 弘祐	体育研究所	助教	
	矢部 まどか	体育研究所	助教	

研究プロジェクト5

「競技力向上のための効果的なトレーニング方法およびコンディショニングに関する研究」

◆概要：トレーニング期や試合期におけるコンディションの確認とパフォーマンスの評価について、心拍数、微量血液、唾液及び尿中成分などの運動生理学的エビデンスを基盤とした競技力向上に資する研究を行っています。

◆研究員：杉田正明，西山哲成，大石健二，岡田隆



日体大ならではの高度な研究を推進し、社会的課題に挑む

体育研究所は、本学の特徴を存分に発揮し、研究面の日体大ブランドをリードする存在である。競技力、健康、子どもの心とからだなど、多岐にわたる研究をマネジメントする中里浩一所長に、体育研究所の概要や研究の最前線について話を聞いた。

体育研究所長
保健医療学部整復医療学科

中里 浩一 教授

— 2014年度に所長に就任されて以来の取り組みを振り返って、成果、ご苦労されたこと、研究内容・体制の充実・発展した点などについて総括ください。

所長就任当初、当時の谷釜了承学長より西山哲成トレーニングセンター長と協力して本学競技力の向上を目指す仕組みづくりを命ぜられました。結果的にNASS (Nittaidai Athlete Support System) を組織し、医・科学サポートやタレント発掘などを実施しました。私



は当時総合スポーツ科学センター長を兼任しており、そこでは本学における科学研究費補助金獲得の向上に取り組みました。結果的に本学の科研費獲得数は増加し、平成29年度には新規課題採択率が全国27位となりました。2017年に総合スポーツ科学センター長の職から離れ体育研究所所長の職となりました。ここから競技力に加えて健康科学に関する研究を始めとする5つのプロジェクトを策定し精力的に研究活動に取り組んでいます。

— センターの特徴、他大学等の体育研究機関との違い、日体大の優位性はどうでしょう？

本学の優位性は間違いなく競技力の高さ、競技種目の幅の広さ、競技者の人口が全て兼ね備えられていることにあります。ある競技において競技歴が6年以上の選手を50名以上募り、かつその中に国際レベルの競技力を持った選手を含めるといったことが複数の競技種目で実現できるのは国内では間違いなく日体大だけです。

実は上述のNASSの組織づくりは比較的容易でした。なぜなら幅広い競技における競技力の高さを支えるだけの医科学サポートのノウハウがすでに大学内に点在しており、それらを再整理すれば十分にサポート体制が構築できたからです。このことから本学は競技力およびそれに関連した点に有意性があるのは明らかだと思います。

— 現在、特に力を入れている研究分野・活動などを紹介ください。

体育研究所ではオリンピック・スポーツ文化研究所と協力しながら本学を研究面からブランディングするべく、日体大に特徴的でありかつ社会的に重要性の高い課題に取り組むべきと考えます。またその取り組みは原著論文をはじめとした成果の発表および社会への還元がなされるべきと考えます。このような観点の下で体育研究所では以下の研究者を選定しそれぞれの課題に取り組んでいます。

競技力に関する研究が本学でもっとも重要であることは上述のとおりであり、NASSによって実践的に取り組ま

Research Institute for Sport Science

れているところです。体育研究所としても杉田正明先生を中心にNASSと連携しながら本課題を推進しています。

超高齢社会に突入したわが国では健康寿命の延長は今日的な課題です。身体活動の向上が健康寿命に資することは疫学的にはほぼ自明ですが、さらなるエビデンスの積み上げが必要です。体育研究所では基礎(私)、臨床(岡本孝信教授)の両方の観点からこの課題に取り組んでいます。

体育研究所のこれまでの歴史の中で一貫して行われているのは子どもの心とからだの研究です。これは正木健雄名誉教授に始まり、現在では野井真吾教授が中心となつて精力的に研究活動を展開してもらっています。

驚くべきことですが、様々なトレーニング法は男性アスリートの結果をもとに作られており女性アスリートに最適とは言えないものもあります。本学須永美歌子教授は女性アスリート研究の第一人者であり、本学を特徴づける重要な課題として研究活動を推進してもらっています。

―近年の特徴的な研究例を紹介ください。

日体大の中には様々な優れた研究がありますが、私が関与した研究で日体大の強みである数多くの大学アスリートという環境を活かした研究のご一端をご紹介します。

遺伝子とスポーツパフォーマンスの関係は世界的には2000年ごろから研究が始まりました。中でもACTN3遺伝子は競技力との関係が高いとされてきました。私は現体育研究所所属である菊池直樹准教授と協力しACTN3遺伝子とスポーツパフォーマンスの研究を進めてきました。遺伝子に関する研究において重要なのは対象者と数です。レスリングは本学を代表する部の一つですが、本学レスリング部の協力を得ることでACTN3遺伝子と国際競技力の関係が鮮明に示され、大きなインパクトを与えました①。

アスリートにおける腰痛などの腰部疾患は大きな問題です。私は現体育研究所所属である平沼憲治教授と協力し、601名の本学アスリートを対象として腰部椎間板変性に関係のある遺伝子の探索を行いました。その結果、軟骨に存在し膝関節症と関連するとされるCILP遺伝子が

腰部椎間板変性発生にも関与することがわかりました②。また、やはり本学の競技力を代表する競技体操部における腰部疾患の特徴とその遺伝子との関係も明らかにすることができました③。

これら遺伝子研究は運動生理学を分子レベルで理解する分子運動生理学研究の先駆けといえます。現在私共のグループではヒトにおけるこれら遺伝子研究の分子メカニズムを解明すべく、田村優樹助教、鴻崎香里奈助教らとともに遺伝子編集技術を用いてヒト遺伝子研究モデルマウス(ラット)を開発しようとしています。

- (一) Kikuchi N et al. Int J Sports Physiol Perform. 2013; 8(1): 57-61
- (二) Koyama K et al. Int J Sports Med. 2013; 34(3): 218-22
- (三) Min SK et al. Am J Sports Med. 2010; 38(12): 2552-2557

―体育研究所の取り組みにおいて課題と感じていることはなんでしょう。

課題の一つは研究レベルのさらなる高度化です。科研費取得状況でも明らかのように、この数十年本学の研究活動とそのレベルは上昇傾向にあります。オリンピック・スポーツ文化研究所とともに本学を代表する研究所として、体育研究所はさらなる研究レベルの向上を目指すべきだと思います。そのためには人事配置、外部資金の獲得、外部組織との連携、国際化といった様々な手段があります。研究の高度化をはかる手段の一つとして、一昨年度より助教RF (research fellow) 制度を導入しました。助教RFは学内外を問わない一般公募にて人選を行い、研究能力によって採否を決定することで、体育研究所の研究力の向上を目指した制度です。現在3名の助教RFが位置づいており、鋭意研究活動にいそしんでいます。

もう一つの課題は広報活動です。学納金に支えられている我々の活動はしっかり学内に還元すべきと考えています。そのため、従来のマンスリー学術セミナー等の講演活動の実施に加えて、本年度よりホームページを充実させて学内外への研究活動の広報に一層力を入れています。さらに学部・大学院教育に関しても研究成果が還元できる仕組みを考えていきたいと思います。

―学部生・院生・教職員に対してメッセージをお願いします。

特に皆様にお伝えしたいのは、他の体育系大学に負けない国際レベルの研究が日体大で行われているということと、その研究のいくつかは本学の高い競技力と結びついているということです。日体大はNippon Sport Science Universityの英語名にふさわしい大学であると自負していただいて結構だと思いますし、その重責の翼を担う組織が体育研究所でなければならないと考えています。

―今後の構想・抱負をお教えてください。

繰り返しになりますが、日本体育大学を研究面からブラッシングするべく体育研究所は本学にふさわしくかつ強みのあるテーマで研究を展開していく責務があります。また国際競技力の向上に耐えうる高いレベルでの研究を展開すべきです。これらの重責を果たすべく、今後も体育研究所の取り組みにご理解とご支援をいただければ幸いです。

中里 浩一

(なかざと こういち)

体育研究所所長、保健医療学部整復医療学科。東京大学総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系博士課程修了/博士(学術)。専門は複合領域、生物学、医歯薬学。運動生理学、運動生化学をメインに人の体と運動との関係について科学的解明に挑んでいる。



スポーツが好き。子どもが好き。そんな仲間たちが集まる児童スポーツ教育学部(愛称:児スポ)。元気いっぱい、個性あふれる学生たちが集まっています。まずは、そんな児スポの魅力を、児童スポーツ教育学部に在籍する一方、日本女子サッカーリーグ「日テレ・ベレーザ」で活躍する三浦成美選手と仲間たちに紹介してもらいます。

Navigator 児スポのスゴイ人!

三浦成美 (Miura Narumi)

神奈川県立川崎北高校出身

学業とサッカー選手を両立。優しく、仲間思いと評判。なでしこジャパンのメンバーに選ばれるなどサッカーに全力投球だが、子どもにサッカーを教える夢も持っている。



Talk about 三浦成美

吉倉 普段私たちと会っているときと、サッカーをしているときと全然違いますね。

林 そう! ギャップしかない。テレビでサッカーをプレーしているのを見ると、すごい人だと思えます。

吉里 切り替えがさすがですよね。

宮下 普段はのんびり屋さんで、いい意味で天然な感じがしますけれど。

吉里 ゆるい? でも誰とでも話せるやさしい人です。

宮口 つまりは、いいヤツってこと。

全員 その通り!

三浦 そうなのかな(笑)。切り替えと言うと、サッカーのときは確かにスイッチ入りますね。

宮下 それから、サッカー日本代表なのに、そんなスゴさを出さないんです。

林 私は三浦さんがサッカー日本代表で頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思っています。

吉倉 では、三浦さんは私たちのことをどう思っていますか?

三浦 みんなが頑張っているからこそ、私も頑張れるし、勇気をもらっています。とても大きな存在です。

全員 カッコいい!

三浦 そうそう、W杯のとき、みんなから応援の動画を送ってもらいましたよね。それを毎試合前に見ていました。うれしかったし、モチベーションが上がりました。みんなありがとう!

Talk about 日体大&児スポ

三浦 とにかく、みんなと一緒にいる時間は本当に楽しいです。

宮下 そういえば、私たち入学のときに気がついたら友だちになっちゃいましたよね。

吉里 授業では実技が楽しかった。

吉倉 そう、球技が楽しかった。ドッジボールとか。児スポならではの授業だと思います。

宮口 1年のときの実習で、いろいろなポイントを探しに行くオリエンテーリングを福島でやりましたね。

三浦・吉倉・宮口 楽しかった!

林・宮下・吉里 えー! めっちゃつらかったけど...(笑)

三浦 そのときみんなで作ったカレーがすごく美味しかった。火起こしからやりましたよね。

吉倉 1年のときだけではなくて、4年のときにも行きたかったですね。

吉倉 日体大、そしてもちろん児スポに入っ

宮下 授業で教えてくださる先生がスゴい方々ばかりだし、有名な選手もいっぱいいます。

三浦 私はスポーツ栄養学の授業など、選手として生かせることが多く、とても役立つと思います。もともと小さな子どもの先生になりたくて日体大に入ったので、児スポで学んだことを活かして将来は指導者になりたいとも思っています。

林 三浦さんが先生ならみんなから好かれますよ。

宮下 子どもと一緒に遊んでいそう。

宮口 私も三浦さんにサッカーを教わりたい!

Message for Narumi

宮下 今のままの三浦さんがとても素敵だと思うから、今のままの姿で世界で活躍してください。

吉里 スポーツを続け

るのは大変なことは自分もやってきたのでわかります。それを卒業してからも続けていくのずっと応援を続けます。

吉倉 体を大切に、けがに気をつけてください。三浦さんはやさしいからいろいろため込んでしまってもいいけれど、時々発散してくださいね。

宮口 サッカーのことはよく知らなかったけれど、三浦さんがいたから見るようになりました。だから私のようにサッカーを知らない人にも三浦さんのプレーでサッカー旋風を巻き起こしましょう。

林 今でも十分頑張っていると思うから、たまには自分を褒めてあげてください。私は卒業して仕事を始めても土日は休みなので、試合を見に行きます。

三浦 みんなありがとう! 目標は選手として活躍し続けること。みんな大事な一生の友だちなので、このままずっと仲良しでいてください。

児童スポーツ教育学部4年
宮下 芽衣

児童スポーツ教育学部4年
吉里 美優

児童スポーツ教育学部4年
林 睦稀



◆児童スポーツ教育学部

「児童スポーツ教育コース」と「幼児教育保育コース」の2コースがあり、次代を担う子どもたちの「健康で豊かな社会」を創造できる、子どもの健康と成長に寄り添い見守れる指導者を目指します。

三浦選手
with
仲間たちが選んだ
児スポあるあるトップ5

児スポが 好き!

～三浦成美選手と仲間たちの女子トーク～

1 私服の人がほとんど

部活に入っていない学生もいて、ジャージではなく私服の人が多いようです。もちろんジャージを着て来る人もいます。それだけ服装は自由だということです。

2 比較的時間がフリー

1、2年時は授業が第一ですが、しっかり単位を取っていけば3年、4年と授業はそれほど忙しくなく、開いた時間の「空きコマ」ができます。その時間に友だちと遊んだり、自分の勉強をしたりと時間が有効に使えます。

3 実技が不安でも大丈夫

小さな子どもたちの先生を目指すので、本格的な競技スポーツより体を動かす運動のような実技が多めです。教室で受ける授業も多くあり、4年になるとほとんどが座学です。運動が苦手という人も児スポでなら楽しく学べます。

4 クラスのまとまりが最高

1年から4年まで約40名が同じクラスで授業を受けます。部活に入っていないなくても、自然とそのクラスで友だちができ、密度の濃いつきあいができ、一生の仲間もできます。

5 4年間キャンパスが世田谷

1年から4年まで授業は東京・世田谷キャンパスで行なわれます。都心へも出かけるのも便利です。



児童スポーツ教育学部4年
吉倉 唯衣

児童スポーツ教育学部4年
宮口 沙也

サッカーが好き！

バイタリティあふれる児スポ女子を代表する三浦成美選手。そして、日体大は多くの女子サッカー選手を輩出しています。日体大出身で、同じ日テレ・ベレーザの先輩として三浦選手を見守ってきたのが有吉佐織選手です。続いては、学生生活とサッカーを両立している三浦選手の「プロサッカー選手」としての顔に焦点を当てます。三浦選手と有吉選手に、サッカーの魅力や選手としてのビジョン、そして日体大について語ってもらいました。

～アスリートとしての三浦成美とサッカーを語る～

日テレ・ベレーザ

三浦成美

×

日テレ・ベレーザ

有吉佐織



◆日体大に入った経緯は？

三浦 子どもが好きで、子どもにスポーツを教えることが学べる大学を探っていて日体大に決めました。家から近いこともありました。実は兄も日体大出身なのです。

有吉 私は当時、日体大のサッカー部が強いと評判を聞いていたので、日体大でサッカー部（女子）に入ることが目的でした。高校の監督に勧められたこともあります。

◆サッカーの楽しさ、魅力は何でしょう？

有吉 ボール1つでみんながつながっている実感がします。パスをまわしてゴールを狙う。得点するにはみんながボールに関わらないといけないし、同じ目的を持ってプレーするので、やっていてとても楽しくて魅力的だと思います。

三浦 その通りです。さすが有吉さん。サッカーはチームスポーツなのでみんな考えて、みんなで悩んで、そして練習する。一つのゴールを狙うにも、どうすればいいか一緒に考えてプレーするのがいいです。みんなと一緒にサッカーの話をしているときがすごく楽しいです。

夢見る！ 児スポ女子

(プロフィール)

三浦 成美(みうら なるみ)

日テレ・ベレーザ所属。ポジションはミッドフィールダー。児童スポーツ教育学部4年。神奈川県立川崎北高校出身。兄の影響を受けてサッカーを始める。中学校入学と同時に日テレ・メニーナに入団。その後、ベレーザに昇格。なでしこジャパン(日本女子代表)に選出され、持ち味を活かして勝利に貢献している。



三浦 私は有吉さんには助けられてばかりです。有吉さんはベレーザには欠かせない存在で、いるだけで雰囲気がよくなる存在です。精神的支柱です。逆に自分のことを考えると、目

◆日体大、日テレ・ベレーザの先輩として後輩として

三浦 有吉さんは、ベレーザの先輩であるし、私はサッカー部ではないのですが、日体大の先輩でもあります。とにかく何かから何までお世話になりつつあります。

有吉 家も近いです。クルマで送って行ったりしています。三浦さんは向上心の固まりのような人で、サッカーに対してはすごく一途です。何でも取り入れようとするあまり、ときとして走り過ぎることがあるので、それをセーブするのが自分の役割だと思っています。まじめな

一方、天然なところもあり、それが魅力でもあります。別の言い方をすれば「フアンタジスタ」とも言えます。

立たない選手かもしれないです。ポジション的にみんなをフォローする役割だからそうとも言えます。

有吉 いい意味で目立たない選手です。みんなの橋渡しの存在だからです。でも、三浦さん

がいるからこそ他の選手がいいプレーができるし、得点につながるんです。そういう大事な役割を高いレベルでできるので非常に重要な選手です。

◆これまでの選手経験で印象に残った試合は?

三浦 ベレーザでは2019年の皇后杯決勝です。そのときはINAC神戸レオネッサを逆転して優勝しました。な

でしこジャパンでは2019年のW杯です。W杯は雰囲気も違うし選手のレベルも違う。オランダに負けてベスト16で敗退したのですが、とても悔しかったです。あんなに悔しい気持ちになったことはありません。

有吉 W杯の決勝では7

8万人の観客がいて、そのほとんどがアメリカの応援でした。そのとき、やってやる!とすごくモチベーションが上がりました。

◆オンとオフの切り替えは?

三浦 私はすぐのめり込むタイプです。特にサッカーになると急にスイッチが入り、まわりが見えなくなってしまうこともあります。だから意識的にスイッチをオフにしないと、そのままになってしまうので、オンとオフはしっかり

切り替えるようにしています。

有吉 私はオンもオフも同じです。常に平常心でいるように心がけています。でも、これはいろいろと経験して、自分でこれがいいとどり着いた方法です。私の方法が誰にでも当てはまるかというと、そうではないし、ベストではないかもしれませんが、私なりの方法です。

◆プレーヤーとしての目標

三浦 ただうまいだけではない、チームの状況をよく理解し、とき

にゲームの中で展開を変えることができる選手になりたいです。技術だけでなく、まわりへの影響を与えられる選手です。それは有吉さんということになります。私は有吉さんのような選手を目指します。

有吉 まず、サッカー

をこれまでやってこられたことに感謝したいです。けがもしたし、W杯にも出られたい、いろいろな経験ができました。だから今後シーズンでも長くサッカープレーヤーとしてやっていきたいです。

◆有吉選手から三浦選手へのエール

有吉 三浦さんはすごくいいものを持っている人です。それはプレーヤーとしても、人間としてもです。いまでも十分魅力的な人ですが、

これからもいろいろな経験をして、もっともっと魅力的な人になってください。

三浦 はい、分かりました。魅力的な人間になります。有吉さんという魅力的な人が身近にいるので、有吉さんをお手本にします。

◆日体大生へ向けたメッセージ

三浦 日体大は明らかに目標を持って頑張っている人がいっぱいいます。そういう人に自分も刺激をもらって頑張っています。こういう恵まれた環境はめったにないと思いますので、これを大事にして、自分ももっと頑張っていきたいと思っています。

有吉 日体大を卒業して、あらためて日体大のすごさを実感しました。いろいろな競技のトップクラスの人が在学していたり、卒業していたりします。そういう素晴らしい大学の学生であることを誇りに思い頑張っていきたいです。

(プロフィール)

有吉 佐織(ありよし さおり)

日テレ・ベレーザ所属。ポジションはディフェンダー。2010年、日本体育大学体育学部卒。神村学園高等部出身。日体大ではサッカー部(女子)に所属。インカレ2連覇に貢献した。日体大卒業後、日テレ・ベレーザに入団し、主力選手として活躍。2013年、2014年にはプレナスなでしこリーグのベストイレブンに選出されている。



スポーツ救急における119の利用

スポーツのさまざまな場面で119番への通報が必要なが起こる可能性があります。
もちろん、何もないことが一番ですが、もしもに備えて準備をすることは非常に重要です。
そこで、どんな場合に119番へ通報すべきか、適切な119番への通報の仕方、
119番へ電話するための準備、緊急事態が起きたときへの備えなどについて、
救急救命士で保健医療学部准教授の鈴木健介先生にお聞きしました。



【プロフィール】
ナビゲーター
鈴木 健介(すずき けんすけ)

保健医療学部 救急医療学科 准教授

1984年、東京都生まれ。日本医科大学博士課程修了。救急救命士・博士(医学)。2015年に日本体育大学保健医療学部助教、2018年に准教授に就任し、現在に至る。現在も日本医科大学多摩永山病院 救命救急センターで救急救命士として命をつなぐ現場に従事する。

鈴木先生からのメッセージ

身近で緊急事態が起きたとき、119番に通報するでしょう。そのようなとき、本当に119番に電話してもよいのか、あるいは何を伝えればよいのか迷うと思います。確実に緊急を要する危険な状況の場合は迷わず119番ですが、それほど緊急でないときなどは#7119番への電話やスマートフォンアプリ「Q助」などがあり、どうすべきかの相談ができます。こういう相談できる電話や、もし緊急事態が起きたときどうすればよいかを知っておくと、その後の処置やけがや病気の状態が変わってきます。同時にスポーツにいっそう集中することができるでしょう。119番を適切に利用できることは、スポーツをする上で、スポーツのスキル同様に身につける技術だと考えています。

どんなときに救急車を呼ぶか

事故やけがをした人に遭遇した場合、救急車を呼ぶことがあると思います。その際、どんな状況なら119番に電話しますか。もし、対象者の意識がいならずぐに119番をすべきです。また、大量の出血を伴うケガなども同様です。

しかし、119番に電話をするのをためらう人もいます。そんな場合は#7119に電話をする、電話だけがや病状などからすぐに救急車を呼ぶべきか、それほど緊急性がないので自分たちで病院に行くほうがよいかなどの相談ができます。もし、#7119で相談して救急車が必要と判断された場合は、電話に出た担当者が救急への連絡をしてくれ

ますので、あらためて119番に電話をする必要はありません。

ただし、#7119は東京や横浜など、一部の自治体しか実施されていません。#7119に連絡ができない場合は、それに代わる全国版救急受診アプリ「Q助」があります。これをあらかじめインストールしておくといでしょう。「Q助」は緊急を要する可能性のある病気やけがに遭遇したとき、該当する画面を選択していくと、「いますぐ救急車を呼びましょう」や「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」などのメッセージが出ます。それに従うことで適切に行動することができます。

また、対象者がおおむね15歳までの場合は、#8000の「こども医療でんわ相談」があります。子どもたちとトレーニングやイベントなどを行なう機会が多い場合は、こちらも覚えておくといでしょう。

総務省消防庁には、救急車が本当に必要なときはどんな場合かを紹介している「救急車を上手に使いましょう」というリーフレットがホームページで公開されています。こちらは日本語の他、英語、中国語、韓国語版もあります。一度目を通しておくのもよいでしょう。



総務省消防庁「全国版救急受診アプリQ助」広報用チラシより



東京消防庁「救急相談センター」リーフレットより

救急車が到着する前にすべきこと

実際に救急車を呼ぶ前にいくつかの準備が必要で、その準備があるかないかで、その後の処置に大きな差が生まれますので、準備は非常に重要です。

まず、119番をしたときに必ず聞かれることの準備をしておくことです。発生場所(住所)、傷病者が意識があるか、呼吸をしているか、性別や年齢、通報者の名前と電話番号は必ず聞かれます。さらに、傷病者の発生した時刻やどういった状況でけがをしたか、病状になったりしたのか、現在または以前かかっている病状やケガ、アレルギーの有無、薬は飲んでいるか(お薬手帳の有無)、ご家族の連絡先や連絡はしているかなどは、救急隊にとって非常に重要な情報です。

スマートフォンの場合、119番に通報すると電話を受けた消防庁などが位置情報取得するので、位置情報をオンにしておく、すぐに自分の位置を正しく救急に伝えることができます。

患者が小さな子どもの場合は薬の量を決めるときに重要な、身長、体重も大切です。これらのことは救急隊が必ず聞くことですので、あらかじめ覚えておきましょう。

ここで重要なのが、これらのことを記録に残すことです。先に紹介した発生した時刻から、何時何分に何をしたらか、どんな状況かなど時系列で紙に記録し

ておきます。緊急事態が起き、自分が発見して対応する場合、周囲の人に手伝ってもらい、今から自分が話す通りに記録をしてくださいと依頼することができればよいでしょう。その記録を救急隊に渡すことができれば非常に良い対応です。学校で保護者の説明に使用するなど、記録を保管する必要がある場合は、記録をコピーやスマートフォンで撮影してから渡すといでしょう。記録によって、混乱した状況であっても確実かつ迅速に情報を伝えることができ、その情報をもとに病院連絡をすることができます。

救急車を呼んだら、どこまで救急車が入れるか、ビルなどの場合は何階なのか、学校などの場合、北門なのか、南門なのか、具体的に伝えましょう。分かりやすいところで待機し誘導すると効率的です。

心肺停止の状態ではAEDを使う場合もあるかもしれませんが、AEDを使った場合、心臓が動き出したとしても胸に貼ったパッドは外さずそのままにしておいてください。AEDは心電図を記録し続けていますので、このデータがその後の治療に必要な

なる場合があります。



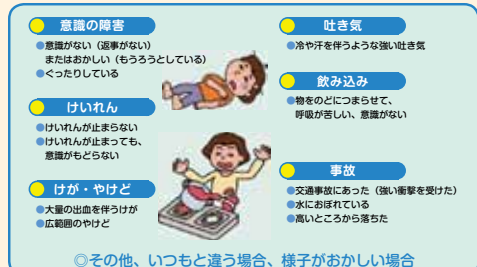
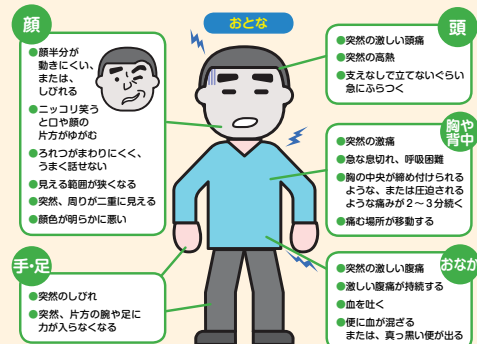
学生メディカルラー

column



救急医療学科では訓練に日々励んでいます

重大な病気やけがの可能性あります!



救急ではないが 受診が必要なとき、どうする

急を要する疑いのある事故やけがで#7119

に電話したが、救急車を呼ぶまでのことではなく、自分たちで病院に行く場合もあると思います。

#7119は病気やけがの状況からいくつか病院を紹介してくれます。それをメモしておきます。その後、直接病院に行くのではなく、これから行くとする

病院に電話し、受診してくれるかの確認を取ることが大切です。その病院が多くの救急患者を受け入れていて、対応できない可能性もあるからです。メモし

ておいた病院にいくつも断られることもあるかもしれません。その場合は、もう一度#7119に電話を

して状況を話し相談してみるのがよいでしょう。

#7119は移動のとき、対象者をどういう体勢で連れて行くかなどのアドバイスもしてくれます。ま

ずは対象者が楽な姿勢にすることが大事です。

とにかく緊急を要する事態ではないのですが、起こることを想定し準備をしておくべきです。どこにどんな医

療機関があるかの情報共有は最低限必要なことです。

準備という点では、もしもに備えて何をどうすべきかのマニュアルを作っておくことで

す。そのマニュアルに基づき、

訓練をしておくことも重要です。その際、実際の現

場を再現するようなシミュレーションをしておくこと

です。マニュアルは基本的な流れやポイントなどを記

すだけでなく、いつも高所で活動している、水が近く

にあるなど、その部やサークル、組織によって特有の

事柄もあると思われるので、それに対応したことも書

き込めるようにしておくとういでしょう。

ただ、マニュアル通りにいかないこともあるかもしれ

ません。また、自分が思うようにいかないこともあるあ

るでしょう。訓練の後、何を改善すべきか、今後どう

すべきかなどを再考し、みんなでその情報と経験を

共有することも忘れてはいけません。何か起きた

場合、ゼロから考えるのではなく、自然にすぐに対応できるようにするのが理想的です。

このマニュアルや情報、経験などは一部の人の限ら

ず、部員やメンバーすべての人が共有しておくべきで

す。一部の人のみに限られていると、その人たちがいない

と緊急に対応できないことになってしまいます。多く

の人を緊急事態から救うためにも、緊急対応はみんなの常識のようになっていでしょう。

一人ひとりがどんなときに救急車を呼ぶべきかを

学校教職員を対象とした講習会を行っています。
様々な教材も公開しています。ぜひご活用ください。
<http://emergencyfirstaidinschool.com/>



経験とスキルが向上、

メディカルラリーとは、医師、看護師、救急救命士、薬剤師などの医療関係者がチームを組んで、医療が必要な緊急事態に対応するスキルを競う競技会です。2018年11月に第1回日体大学生メディカルラリーを実施しました。日体大の学生だけでなく、近隣の医療・看護系大学など約200名が参加しました。

1チーム(6-8名)で5-6のシナリオを行います。各シナリオで救急救命士・救急隊員・消防隊・医師・看護師など役割を指定され活動します。競技会は緊急の連絡を受け救急隊が到着するところから始まります。現場の状況の判断、処置方法や搬送先を選択。現場の状況と傷病者の状態を時系列で記録するなどを競います。

他大学と競うことでスキルの向上はもちろんですが、さまざまな人たちとのコミュニケーションが図れ、卒業後にもこの関係が役立つと考えています。そうすることで本当のチーム医療が実現できると考えています。

今後は、大学生だけでなく子どもも参加できるメディカルラリーを開催したいと思っています。



Next is us

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

10

兎澤朋美

パラ陸上（100m、走幅跳）

目標を与えてくれた陸上。チャンスをくれた日体大。

両親、出会う人々への感謝の気持ちを胸に

2020年に向けて全力で走り続ける。

陸上を始めたきっかけ

小学校5年生にときに病気で足を切断することになりました。それから自分で積極的に動くことが少なくなっていました。中学に進み2年生のとき、義足装具士に足を失った人を対象としたサークルやスポーツの練習があるからと誘われて行くことになりました。そこで陸上の練習をしました。そのとき、走ることは楽しい、風を切るのはこんなに素晴らしいことなのかと改めて思ったのです。以来、月に1回程度、陸上の練習に参加し、時々大会にも出場しました。当時、陸上の楽しさは実感していましたが、陸上の選手になろうと、どうしても優勝したいとか、そこまでは考えていませんでした。競技として陸上に取り組みようになっただけの日体大に進学してからです。水泳やゴルフ、それにチアリーディングなどを習っていたことがあり、スポーツは好きだったので、意を決して陸上で自分をレベルアップすることにしました。

日体大に進学を決めた理由

日体大に給付型の奨学金とパラアスリートブロッックがあったことが決め手でした。日体大で東京2020パラリンピックに出場することを目指し、本格的に陸上に取り組みたいと思い、建築系の学部志望から180度方向転換して進学を決めたのです。陸上にはほぼ初心者レベルだったので、1年生のときは特に練習が辛かったです。しかし、パラリンピックという目標があったので諦めようと思つたことはありませんでした。やればやるだけ記録が伸びていくことも気持ちを後押ししました。2018年9月には走り幅跳びでアジア新記録を達成しました。自己ベストを更新していくことですごく達成感があります。

また、授業では、水泳で自分が泳げなくなっていることを知りショックを受けたことがありました。それでも、2年の海浜実習での遠泳は完泳でき、やればできると自信が付きました。このように、

日体大に入学してから活動範囲が格段に広がりました。

今の自分があるのは両親のおかげ

私が病気になるたとき、両親は医師からもう助からないと言われたようです。治療を続けて大変な思いをさせるより、残りの人生で好きなことをさせてあげたらどうかという選択肢も勧められたそうです。

でも、両親はそんなことは私には全く言わず、そんな素振りも見せずに治療を続けてくれました。ですから、まさか自分がそんな運命にあるとは当時は知りませんでした。両親が作ってくれた野菜ジュースを飲んだり、漢方薬を服用したりしても、なんでこんなに美味しくないものを飲み続けなければならぬのかと恨めしく思ったことも一度や二度ではありません。両親はわずかな可能性に賭けて私の治療を続けてくれたのです。

その結果、私はこうして生き続けて、大人になることができました。両親には感謝しかありません。今では東京パラリンピックに出て、そしてメダルを取るという大きな夢もあります。加えて、監督や先輩、まわりの仲間も一緒ですから、今は最高に幸せです。

東京2020パラリンピックは夢の舞台

東京2020パラリンピック出場を目指し、現在、走り幅跳びと100メートルの2種目に取り組んでいます。幅跳びで距離を伸ばすためには走りも重要なので走る練習を増やしています。

パラアスリートブロッックでの練習は最初のアップやジョグや体操など、みんなで行うことはみんなでもとまっています。パラの選手は一人ひとり障がいも違うこともあって一人で練習する人が多いようですが、日体大はみんなで行けるところがすごくいいです。

また、海外の大会などに参加して大学に戻ってくると、仲間が大会の様子を聞いてくれた



り、声をかけたりしてくれます。パラの競技はまだあまり知られていないのですが、競技や私の義足のことについて、真剣に聞いてくれる人もいて、私もしっかり説明します。私も陸上についてまだまだ知らないことが多いので、パラアスリートブロックに限らず、いろいろな方々から教えを受けることができ、とても心強いです。陸上は個人スポーツですが、チームで戦っているような実感があります。

東京2020パラリンピックに向けて

日体大の学生は、自分の目標に向かって本気で取り組んでいる選手たちばかりです。多くの仲間に出会い、こうした情熱をとて強く感じてきました。

私自身も病気の絶望を経験した所から陸上競技に出会い、そして今、パラリンピックに出場してメダルを獲得するという大きな目標があります。日体大生の一員として、彼らと切磋琢磨しながら自分を高めていきたいです。

また、憧れている重本沙絵選手（リオパラリンピック・陸上競技メダリスト）のように私も活躍し、人々に勇気を与えられる存在になりたいと強く思います。

そのために、この恵まれた環境、そして今・今日を生きていることに感謝の気持ちをもって、今できることに全力で取り組んでいきます。

まずは11月の世界選手権でしっかり結果を残し、2020年東京大会への切符をつかみます。

できると信じれば、必ず夢を実現できる そう強く決意し、大きく羽ばたく

[Next is us 日体魂の聖火リレー]

◆八木選手からの質問に答えて

「私はメンタルがまだまだ課題と自覚しています。どうやら落ち着いて、あるいは強い気持ちで試合に臨めるのでしょうか。ご自分で取り入れている方法など教えていただけますでしょうか」

実は私はすごく緊張するタイプで、あがり症なのです。どうやったら落ち着けるか、私が聞きたいくらいです。そんな状態ですが、レースの直前は練習でできたことを思い出すイメージトレーニングをしています。あのときできたから今回も必ずできると自分を信じることで少しは落ち着いて大会に臨めるような気がします。私もメンタルはもっと強くなりたいと思っています。

◆次号に登場するアスリートに向けて兔澤選手からエールをいただきました。

私を含めみんなが常に上を目指してトレーニングをし、そして試合に臨んでいると思います。みんながその強い気持ちを持って、そしてフェアに向き合い頑張っていきましょう。

◆兔澤選手からのエール

諦めないで続ければ困難は必ず乗り越えられる、夢は実現できると確信しています。大きな病気をした私の経験から、それは身を持って感じます。やればできる、自分を信じて、大きな目標に挑んでいきましょう。

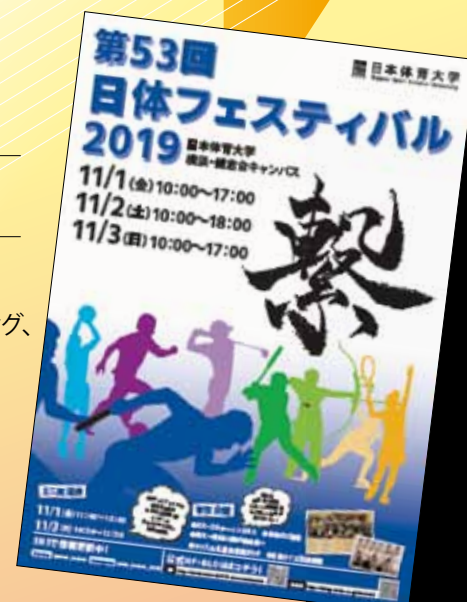
兔澤朋美(とざわ ともみ) 体育学部3年 陸上競技部 バラアスリートブロック所属。常総学院高校卒業。小学校5年生のとき骨肉腫で左足を切断。中学2年生のとき陸上を始める。大学から本格的に競技として取り組み、2018年9月に走幅跳で4.07mのアジア新記録を樹立(現在は4.44mの記録を保持)。100mでは2019年4月、兵庫リレーカーニバルで16秒73のアジア新記録を樹立(現在は16秒41の記録を保持)。

『繫』日体大から体育・スポーツの魅力を発信する 第53回 日体フェスティバル 2019



第53回 日体フェスティバル 2019

- 注目企画 『ミニ実演会』 11月1日11時45分～、11月3日10時30分～
- 出演演目：エッサッサ、ダンス、体操、新体操、セパタクロー、ダブルダッチ、ソングリーディング、和太鼓、エアロビック、ヒップホップ 他
- ※出演団体は日程により異なります。詳細はブログ等でご確認ください。 ※演目は予告なく変更となる可能性があります。
- 開催期間：令和元年11月1日(金)～11月3日(日) 10時00分～17時00分(予定)
- 開催場所：横浜・健志台キャンパス
- 問合せ先：学生支援センター TEL：045-963-7905



第57回 日本体育大学体育研究発表実演会

祭典に向かってー令和のはじまりー



第57回 日本体育大学体育研究発表実演会

- テーマ：祭典に向かってー令和のはじまりー
- 開催日：令和元年11月13日(水)
- 会場：横浜アリーナ
- 時間：開場16:30 開演18:00
- 演技種目：チアリーダー、伝統芸能、新体操、救急医療、体操競技、レスリング、相撲、トランポリン、朝鮮大学校(ダンス)、陸上競技、体操、集団行動、ハンドボール、ダンス、エッサッサ、フィナーレ
- 問合せ先：学生支援センター TEL：03-5706-0904



阿江通良教授が日本人初、 国際スポーツバイオメカニクス学会 Geoffrey Dyson Award賞を受賞!

本学、阿江通良教授が国際スポーツバイオメカニクス学会Geoffrey Dyson Award賞を受賞いたしました。

国際スポーツバイオメカニクス学会Geoffrey Dyson Award賞とは、世界的に有名なスポーツ力学の教科書(The Mechanics of Athletics)の著者を記念して創られた国際スポーツバイオメカニクス学会の学会賞で、スポーツバイオメカニクスの分野で国際的に研究活動が顕著であった研究者に贈られるものです。

現在は31名が受賞していますが、日本人では初めて、アジアでは2人目です。
2019年7月21日から25日に、アメリカ・オハイオ州のMiami大学で開催された第37回大会の開会式において、"THE NEXT STEPS FOR EXPANDING AND DEEPENING SPORT BIOMECHANICS"というタイトルで受賞講演を行いました。



横浜・健志台キャンパス 2号館5階に新しい食堂がオープンしました!!

令和元年9月3日に横浜・健志台キャンパス 2号館 5階に第3食堂となる【KARAKUSA FOODMAINTENANCE】がオープンしました!ランチメニューには日体大生には嬉しいボリューム満点、栄養満点のプレートランチをご用意しております!オシャレなカフェメニューも充実!ドリンクやフロート、こちらも日体大生には必需品のプロテインの販売もあります!

またオープンに先駆け、8月29日(木)には本学関係者により試食会も開催されました。試食会に参加された皆様も大変満足されていました!

是非一度、お立ち寄り下さい。



プロ野球ドラフト会議2019にて 東京ヤクルトスワローズより2巡目で指名を受けました!

2019年10月17日(木)プロ野球ドラフト会議2019にて硬式野球部4年の吉田 大喜(投手・大冠)選手が2巡目で東京ヤクルトスワローズより指名を受けました。

当日は、横浜・健志台キャンパス 2号館 3Fにてパブリックビューイングも開催され、250名の来場者とプロ野球選手誕生の瞬間を共有致しました!

